



關卷驚奇俠客傳

第四集

四

開卷驚奇俠客傳

卷四

四

東 京 圖 書 館

和書門

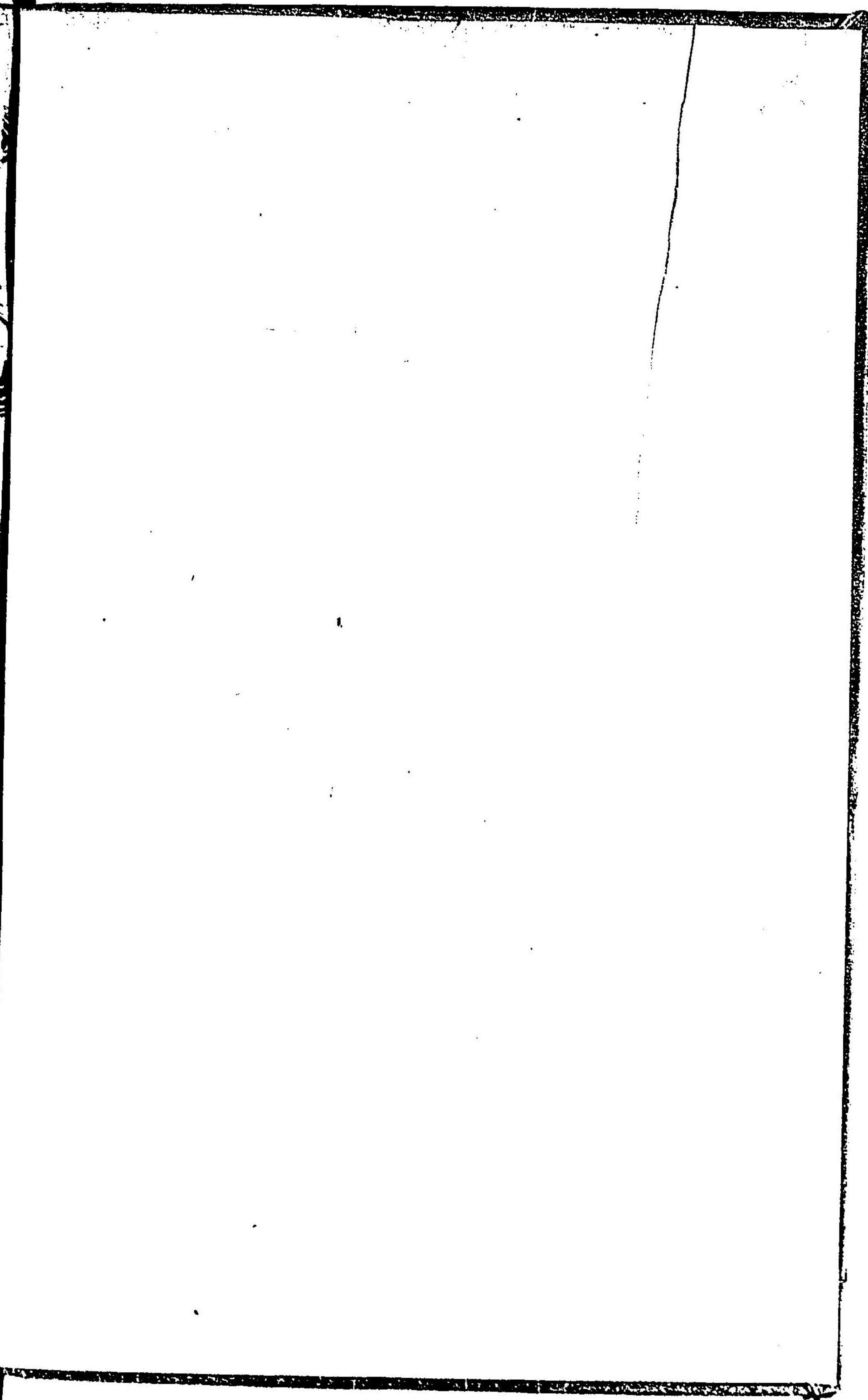
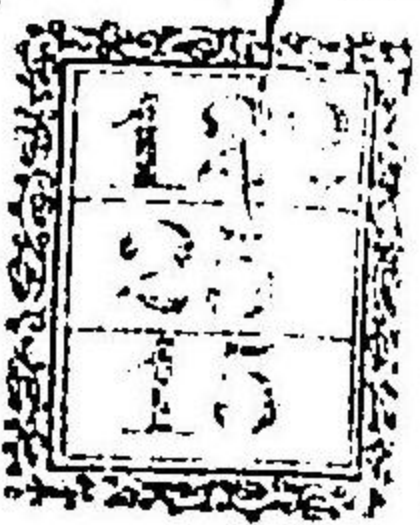
小說類

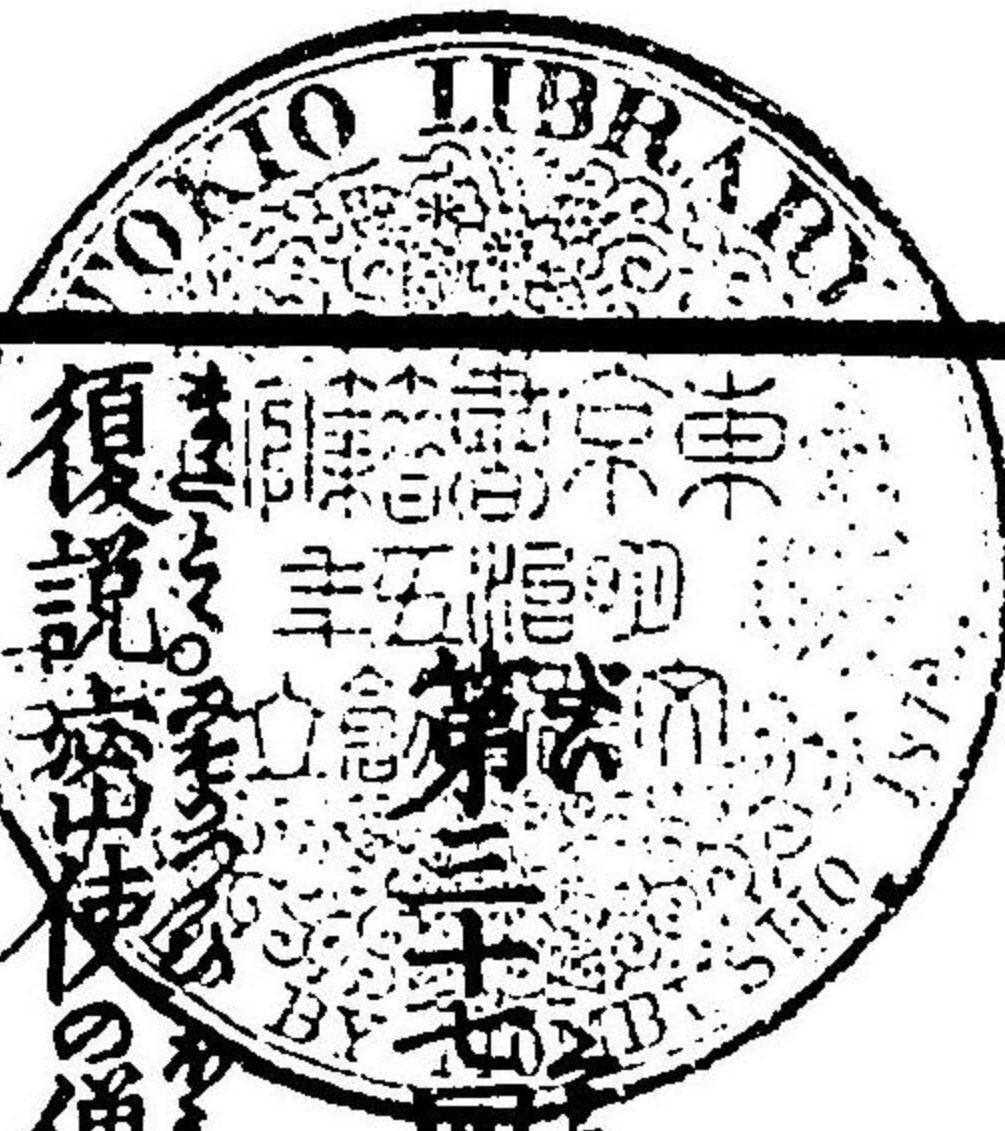
三六函

三架

六〇號

三五冊





開卷驚奇俠客傳第四集卷之四

明治十一年

東都

曲亭主人編次

東都 假密使 雙々令旨を傳ふ

楠女 俠明の玉石を辨む

復説密使の僧嬰云の鳥屋尾矢柄當実と共侶の玄関の傍多小室の内在。姑摩姫の

回教と密使の半响を既に提接の隅屋復二郎安次。速く出たる嬰云當実の

對之御而使等不樂む。却御示教の趣を主人の傍へ告ぐ。姑摩姫答曰。身

是女流の多。見の事及於他郷人達。訪れ衆生濟度の活。菩薩方正。寒然

老武者多。對面願。本下の冠。丸田の香。揮の。香。緑。の。竹園

羽林の兒使と美。云云と推辞。ま。不敬。の。拜見。貴意。依。折。御

起居自由。の。今。上。日。を。迎。ま。の。を。礼。を。鏡。の。と。原。せ。と。ひ。れ。の。美。御。許。の。

卒に案内仕えんとて、嬰云當実の面を照し、故なく拒む。似る口状あり。と云
 と論、急更の障りあり。と云。然氣さる。嬰云。と云。領さる。趣あり。折
 かる病着か。今日を迎ぐ。一。疾も亦是非。及る所。餘の回談あり。快々案内致
 れ。と云。備さる。鳥屋尾生誘。と云。會釋。當実異議。と云。先。道徳。と云。心
 馳。後方。刀を合。と云。身を起。安次。先。找。客房。を誘。引。當下。嬰云。當実。席。薦
 十枚。の。布。早。廊下。の。過。天井。の。四方。縁。より。前。回。到。れ。客房。の。十二。畳。の
 坐席。に。這。客房。の上。の。又。六。畳。小坐席。の。二。間。の。菊。の。花。を。画。き。腰障子。を。建。る
 の。姑。麻。姫。の。ま。え。と。ま。ま。這。客房。の下。の。さ。る。左右。白。地。の。紺。老。菊。水。の。花。を。漆
 做。二。張。の。幕。を。打。且。七。内。の。許。三。人。の。ん。然。或。偷。視。或。情。語。く。氣。象。幽。見
 れ。と。嬰。云。の。の。後。方。の。跟。来。る。當実。の。屋。左。右。首。見。の。快。を。多。く。任。而。嬰。云
 當実。の。引。れ。客房。の。一。折。前。面。の。腰障子。を。内。より。左右。へ。推。用。を。傳。見。れ。楠。姑。麻。姫

白金の花の、鏡見の、鬘の、左右の、挿赫、素と、褐の、紋、綸子の、小袖を、被る、下、白、小袖、さる
 の、龍、韓織の、帯、後、高、の、締、做、黒、孺子、の、菊、の、花、西、星、離、色、を、縫、落、指、指、落、め、る
 袷衣の、尚、巳、時、可、多、衣、領、頭、優、の、披、り、奥、ま、り、を、席、上、の、端、然、と、坐、を、占、る、顔、
 三月の、櫻花、の、如、く、雨、の、惱、と、風、を、恨、朝、日、の、白、の、風、情、の、眉、の、仲、秋、の、新、月、の、似、く、雲、の、
 吐、れ、霧、の、隔、れ、夜、の、池、の、宿、の、秋、と、疑、る、那、吳、竹、の、節、の、七、化、生、の、と、赫、素、日、女、現、一、玉
 簾、の、内、を、床、と、詠、く、小、野、心、町、の、這、輩、の、做、の、傾、國、の、色、傳、り、か、の、美、一、と、艶
 め、る、儼、と、ま、れ、の、猛、と、然、然、と、哀、と、傷、と、あ、く、樂、と、淫、と、あ、く、閑、雅、の、懿、徳、の、の、徳、良
 妙、の、後、方、の、年、十五、六、の、姁、媛、の、護、身、刀、を、右、の、手、に、持、く、只、一、人、を、侍、り、の、嬰、云、あ、れ、を、位、と
 する、あ、く、非、礼、の、女、の、ト、が、縦、脚、氣、の、病、着、あり、と、這、処、ま、り、立、る、迎、を、獨、上、坐、の、身、を
 高、く、尊、尊、甲、と、召、さ、る、鳥、許、の、舉、動、の、の、義、の、の、奥、ま、り、の、找、む、か、た、た、と、あ、く、と
 の、の、致、圍、暴、く、尚、歩、の、走、り、と、若、く、姑、麻、姫、の、近、着、る、一、程、の、の、脚、忍、地、麻、難、て

間の戸川を流る日踏を賢居の撲地と坐す。然る後方の續き。當実の姑摩姫。
 既に迫りてより。憊る田舎の又憊る美人のわれは。よと。心駒駿。三魂六魄。
 漆を。身邊の近着て。数々の。相。多。似。嬰。云。席。隔。平。張。
 越。找。の。み。阿。谷。々。々。と。前後。首。側。坐。占。け。登。時。姑。摩。姫。
 老。并。伊。勢。人。の。奴。家。を。礼。之。外。男。女。授。け。受。む。の。礼。本。文。
 且。佛。の。教。の。出。家。の。女。の。自。親。東。西。授。受。れ。五。百。生。の。間。
 生。と。説。ひ。た。ゆ。め。非。除。宮。闕。槐。門。の。使。之。一。席。相。迎。之。の。仰。を。
 来。翰。を。賜。佛。西。の。教。違。世。の。人。の。識。ら。ぬ。奴。家。の。美。女。と。
 隔。見。参。ま。不。敬。似。不。敬。の。男。女。送。り。礼。の。節。の。願。多。省。く。来。
 意。具。示。の。身。稱。の。一。の。教。の。從。ひ。又。慥。と。令。旨。
 の。受。が。り。と。嬰。云。の。膝。組。直。し。袖。搔。合。七。楠。姑。摩。姫。と。听。和。女。郎。

考。佛。の。教。を。接。て。審。ん。と。欲。を。れ。も。介。の。の。と。知。し。ん。佛。の。儀。礼。周。礼。記。の。三。礼。の。
 佛。の。僧。祇。律。の。法。則。の。皆。聖。人。の。教。戒。の。相。守。る。の。變。心。と。急。多。と。
 用。ひ。が。呼。び。の。然。の。嫂。の。濁。る。と。扶。と。孟。軻。の。又。法。華。經。の。提。婆。の。八。
 歳。の。龍。女。成。佛。の。折。宝。珠。を。釋。尊。の。獻。り。釋。尊。を。受。む。の。常。居。と。
 心。を。緩。小。熱。く。急。多。を。思。ひ。琴。柱。の。膠。の。の。不。通。の。白。物。を。怜。惜。け。る。女。人。の。
 胸。の。狭。き。を。知。る。を。左。右。の。先。緊。要。の。一。義。を。舒。ん。膝。を。找。て。聽。聞。せ。れ。南。朝。
 前。の。東。宮。小。倉。宮。の。比。の。思。食。の。旨。の。伊。勢。の。國。司。北。自。滿。泰。卿。と。密。々。の。仰。
 合。は。れ。の。南。方。故。舊。忠。義。の。武。士。肥。後。の。菊。池。周。防。の。大。内。四。國。の。主。居。得。能。伯。耆。
 名。和。大。和。越。智。死。路。の。熊。野。八。庄。司。叔。東。國。の。新。田。の。餘。類。遠。江。の。井。氏。信。濃。の。石。
 黒。下。野。の。小。山。陸。奥。の。達。三。又。母。の。情。々。地。の。令。旨。を。賜。を。た。憑。の。は。れ。皆。皆。
 亡。死。と。殘。燼。を。び。燃。ん。と。縁。故。を。原。る。且。異。の。南。帝。北。朝。と。御。和。親。の。折。足。利。義。満。

誓言票を今より後の後まを持明院殿大覚寺殿の御子孫に昔の如く迭代の御位
 即ち御位を固く定むる事今番御受禪の御沙汰ありしを將軍義持持票を
 前約の従ひ當今後小の御子實仁親王院と御位の即ちと請定も票を小
 倉の太上皇院と御位を同食驚きの心その前約の違ふも武家足利と請定も票を
 義持言と両端の富く従ひなきを故の小倉宮後通山の御本意の違ふも
 歎き多しものまの義持討滅の權許の罪を以て思食平の味方の武士と
 徴るに既に右の如くあり楠姑麻姫の早多男の魂ありしを忠なる義父祖の少
 智の曾祖贈三位正成の勝るを武男の父河内前司正元も過さりと灰の御
 意をこの意を傳示と恢復の旗を揚ぎ功あり因心賞を那身の所望に依るべし
 軀令上目成下され嬰云件の使を奉りし事と三日月殿の説示を辨告疾く
 を恨ま合く陳べ鳥屋尾矢柄當実の俱は姑麻姫の對ひ目今道徳の

その那食言もか足利氏の家風を誓言の教今番の誓言の約莫南朝恩
 顧の良賤誰の恨も堪るる況當君の南朝の殘棟梁初より那誓言の干する身
 むれを憤り鮮小を因て小倉宮を幫助も足利氏を討も欲軍議大衆決着
 事の佳れ當君の伊勢も起る伊賀大和平均共日多を京師の攻堅兒和女郎又
 河内を略して大牙送の所接持角の勢を張るも招き七五畿の武士風を位て來降
 事の美弥同意の于云旗慢幕の料を松之嶋今の松坂の白布三百尺鯨魚の燈油五十
 樽軍要金五百兩異日悄悄地の運送せし軍旅の雜費も充て欲を願ふ楠氏舊來の
 勇士をも招集も俱は范蠡大夫種の昔地の等策を旋りも比小倉宮も
 潛り當君の消息も折りの歌の立たせ波の海竹の都世
 た老最痛れ歎き風雅の疎き當実們も只感涙の外あり君辱れあは
 死すの本文の違背も餘の書翰も備へし命を合せられ當君の

美ら。あかきまゝのむ。鄙語の非理の前は道理なり。いふれは。二日ある。七匹夫匹婦の
 理の勝たぬ。漫前巻。三入ると。齊力かのの勝。このも。官府の理會。及ぶ。この理の
 必強。奴家の。あかきまゝ。今。旨。の。兼。の。團司の書翰。の。ま。欲。を。回。答。を。是
 志。身。の。志。も。甚。か。り。饒。ま。り。の。退。ん。て。立。ま。せ。頭。を。急。呼。喚。禁。せ。且。等。身
 姑。摩。姫。乃。初。め。趣。理。あ。の。似。れ。然。ま。君。臣。尊。卑。の。礼。を。止。せ。と。多。次。多。を。是。景。裏。室
 町。の。御。所。の。潛。ひ。入。る。と。和。女。郎。の。道。理。の。勝。た。ぬ。の。犯。せ。り。あ。る。後。小。倉。の。仙。院。よ。り
 一。千。金。を。賜。り。聖。恩。を。忘。れ。ぬ。今。番。小。倉。官。の。満。濟。を。大。事。と。扱。ま。り。と。欲。を。賢。い。ま。り。ん
 傷。痛。は。婦。人。の。稜。智。慧。志。を。醒。と。し。美。稜。ま。父。祖。累。代。の。亡。魂。の。草。の。原。に。飲。ん。住。い。の。ま。り
 曉。得。と。言。は。れ。姑。摩。姫。も。領。た。る。亦。疑。い。の。た。該。は。景。裏。の。奴。家。が。足。利。殿。を。粗。敷。ん
 と。欲。す。今。番。示。さ。御。隱。謀。と。志。同。か。も。他。の。世。累。ね。る。君。と。父。の。讐。敵。之。且。奴
 家。足。利。氏。と。和。睦。と。さ。る。事。の。身。を。流。れ。ぬ。又。正。元。の。志。を。嗣。人。と。決。め。り。

上。の。古。轍。の。倣。ふ。時。運。微。く。捕。捕。れ。屠。殺。を。肉。祖。の。上。の。僕。の。君。父。の。威。靈。の
 憑。り。ひ。ん。ひ。の。助。命。せ。れ。故。御。の。還。る。事。の。昔。唐。山。の。齊。の。田。横。又。我。大。皇。國。爲。
 伊。東。祐。清。の。或。の。逃。れ。或。の。生。拘。れ。還。て。仇。漢。高。祖。の。勸。賞。の。遇。へ。と。恥。く。
 田。横。の。徒。五。百。餘。名。と。俱。く。自。殺。祐。清。の。辭。去。諸。平。兵。陣。歿。る。今。の。御。心。美。談。
 と。然。る。奴。家。の。那。折。の。死。す。一。敢。又。露。の。命。を。惜。む。あ。る。嵯。峨。の。仙。院。山。御。座。を。奉。
 の。光。景。を。外。多。る。目。見。果。を。七。死。と。言。ひ。並。た。所。行。た。と。欲。を。饒。れ。た。命。を
 足。利。氏。の。借。り。た。徳。の。り。の。か。か。一。代。の。又。復。讐。の。念。を。起。ま。松。風
 蘿。月。を。友。と。七。獨。天。命。を。樂。む。又。那。折。の。太。上。皇。の。一。千。金。を。賜。り。足。利。殿。の。計。殺
 と。詳。か。る。の。惶。む。人。も。奴。家。が。此。の。忠。義。の。志。を。保。衣。を。の。御。賜。と。兼。り。今。番。官。の
 御。隱。謀。を。助。助。ま。り。と。豫。より。賜。り。る。金。を。絶。之。仰。の。あ。り。密。談。を。傳。へ。と。心
 の。御。恩。を。忘。れ。ぬ。と。多。く。御。使。僧。辞。を。失。ひ。の。我。心。石。の。あ。る。然。と。轉。せ。と。我。心

身を起して又玄閑も出てくるを安次の後方へ跟て送ると願ふ云當実の知りぬ毫も口を
 怒らせ程と伴當の取家の言遣いと飽まふ叱咤あつたさうさう及の合客主人的の外れ並前の
 外へ出て那這見且七那學云們多く方と跟て倫れ走りけり。恁而又安次の左右の幕の
 蔭の籠りたる奴隷農僕們を勞ひて先を幕を合除き更にお客房を掃掃の程を
 垣衣の墓参りて去果て宝珠院よりかきまゝの休姑麻の身邊へまゐると云々と叔一が姑
 麻の亦嗟峨と言ふ氣より来るといへ僧俗兩個の使の支の趣の苗様々と鮮示と
 休の故郷の伊勢と云ふ存在は他們を偷見せん折の遇候極も復一郎の幼推時
 年来の氣の在りたる高筆の認めるといふと生口を垣衣らにまてた遺恨をいふなり然る
 多し復一も辨正かた昔里人を外に知ぬ女子の視を規ふとも甲斐の思ふは
 かとの間か安次の其頭の坐席を掃ひ託と来る姑麻の稟まふ初よりと否一
 身

那兩個の使者が物の言進止まざるを言ふ然と推目里のわき真然假然
 證拠と云ふと多し最も氣強き答を胸安にひかんと姑麻の微笑して復一は自由線
 の貴人の名願ふと思ふ足らぬん他們素より贖物多し何の疑ひあるや正しく
 ぬきと云ふ玉石既に分明れ多し隨懲りうと其其を推する非除小倉宮の伊勢
 團司の情々地仰合され思食立と云ふと一つの女子を憑て一方の大將の
 のを詭計の言ふ昔木曾義仲の東軍を防難に既京師を落したる男婦
 の後取の取と云ふ暇を取ると云ふ男將の用心多し任ふとのを北自由
 軍要の與と倡て東西言ふ日録載るの疎忽に我々一味を否知り合を
 先の利誘ふ欲する是小人の了簡の且日録の目せ玉心かよる贈金
 似す那北自由の叔父を得辨る思將よる言ふかよる家臣然るの了簡
 詭計の之他真の密使多し先我左右を退け藩を談話初より然る心
 公然と



九

四九



二



やゆい奇持のの那墓まわり
垣衣上境自室珠院還
持永脊美恋憐姑摩姫
をりくは花み降ぬけ春乃風

有像第五三

九
第五八
とん

竹葉傳第四卷老巴

九

二

説誇り頭隠し尾見たる世話の似す。且願女云と名告る似而非法師。我
 屢審やれ。怒れる折れ已と忘れゆく聲。奇立し。贖物を所以多。復一と必す。一
 是詭計のニ。多。我義侠之醋。多。遊佐就盛。拙策然。官領満家。奸
 計。件の二人。間者。七京師。今初。由断。人心。只小心
 如。論。安次。感服。七憶。嘆息。俱。垣衣。毛骨。坐。辣。胸。安
 姑。早。安次。貌。改。額。方。僅。詳。多。脚。示。教。之。疑。之。露。丹。元。有
 一。條。初。那。嬰。云。連。我。身。邊。近。着。全。折。忽。地。平。張。坐。老
 小。要。時。醉。如。多。其。麻。多。法。術。系。ま。け。の。美。の。示。ま。の。か。と。同。か。姑。摩。姫。頭。を
 掉。否。と。那。折。我。法。術。之。他。歩。林。禁。め。ま。他。素。より。邪。術。と。思。俗。と。惑。を。悪
 僧。之。故。我。身。對。之。找。む。と。る。昔。の。怨。例。の。外。藩。唐。の。貞。觀。年。間。西。域
 あり。波。羅。門。の。僧。の。人。兎。兎。勿。忽。地。活。を。術。と。做。す。後。の。太。史。令

傳。亦。其。人。を。兎。兎。我。と。ま。折。傳。亦。介。と。知。在。り。其。僧。の。志。ん
 猛。倒。死。で。け。見。邪。正。勝。を。わ。我。止。か。ん。多。邪。術。の。妖。僧。找。も。欲。す。と。近
 他。は。我。と。我。と。幸。ひ。の。七。免。れ。後。か。如。く。死。を。促。さ。し。と
 安。次。垣。衣。と。且。感。且。畏。と。理。義。の。深。に。悟。り。け。り。浩。処。小。僧。の。安。次。の。意。を。受。て
 那。嬰。云。們。を。跟。け。て。走。る。一。個。の。奴。隸。か。う。安。次。を。喚。ま。七。任。じ。と。報。し。安。次。は。果。て
 又。與。赴。姑。摩。姫。の。宗。を。小。可。那。使。者。們。を。人。を。後。より。跟。ま。七。あ
 方。を。規。せ。よ。と。者。只。今。安。次。を。那。毎。の。如。く。裁。番。と。な。す。遊。佐。殿。の。城。を。二
 連。立。て。現。姫。上。の。御。明。辨。鏡。を。以。照。さ。と。毫。も。錯。ひ。の。姑。摩。姫
 點。頭。之。然。も。贖。物。們。が。今。宵。の。宿。り。遊。佐。多。下。左。就。右。右。就。左。仇。恨。の
 垣。衣。何。の。非。除。身。是。婦。女。子。と。も。防。武。藝。疎。く。難。か
 位。で。脱。る。便。り。多。争。何。復。一。郎。が。投。石。の。術。の。女子。も。字。び。た。技。多。り。垣。衣。の。教

考。とこれ安次頼とて小可賤技を惜むわなむ。仰小違ふ恐れども。用方女の授け受
 と。本文のいふ所の義をより。既を多と推辞。姑麻姫合笑。然々々々。謹慎深。於
 小心の徳友。一考。我身教。いかに。投石より。鍼を擲。敵の眼を打。漬。技を。以。以。以。
 い。女子の相心。か。ん。と。垣衣。飲。ひ。の。感。涙。坐。の。伏。拜。を。も。有。如。死。御。恩。德。然。我。
 ま。の。御。親。教。導。す。は。あ。ふ。非。除。百。夜。艾。睡。を。も。見。給。事。の。暇。あ。毎。日。及。給。ま。す。丹。
 精。を。抽。く。学。び。侍。ら。ま。す。只。御。傳。授。を。望。ま。し。けれ。と。批。言。が。ど。く。希。ふ。姑。麻。姫。の。亦。飲。公。技。の。
 諱。師。匠。より。その。弟子。が。倦。で。字。が。進。む。と。速。り。避。莫。け。黄。昏。昏。り。明。日。より。必。諱。ん。
 傳。授。百。日。許。及。び。比。垣。衣。の。件。の。技。を。漸。々。の。学。び。の。先。試。の。者。の。鍼。と。蠅。見。
 ま。れ。蟾。子。ま。れ。か。の。儘。七。鬼。を。定。を。擲。の。必。す。く。の。心。中。の。事。り。か。安。次。驚。ま。
 感。歎。と。我。投。石。の。優。う。と。侮。ま。後。の。話。と。案。下。某。生。再。説。那。小。倉。官。伊。
 勢。の。國。司。の。密。使。と。倡。へ。吉。野。の。執。行。脚。云。鳥。屋。尾。矢。柄。當。実。們。が。出。如。未。麻。を。

看官既。猜。せ。る。ん。是。則。別。人。の。管。領。畠。山。満。家。の。姑。麻。姫。を。計。せ。ん。と。京。師。
 より。遣。へ。る。齊。天。行。者。豪。家。と。木。造。泰。勝。を。け。れ。の。今。番。の。功。の。よ。と。管。領。家。の。
 賞。祿。と。の。隨。か。の。者。と。示。し。合。を。来。あ。は。れ。の。似。姑。麻。姫。の。伎。倆。を。看。破。
 免。れ。の。奸。計。の。腹。を。限。り。も。た。さ。却。あ。る。か。ら。八。九。の。社。院。と。立。出。て。情。々。
 地。の。遊。佐。の。城。を。赴。け。先。與。富。田。與。九。郎。を。喚。出。し。と。報。て。當。晚。就。盛。の。對。面。の。折。那。謀。計。成。
 せ。と。還。り。姑。麻。姫。の。辱。せ。ら。れ。る。の。其。の。顛。末。を。面。目。の。情。話。を。就。盛。の。嘆。嘆。
 奉。を。二。位。の。拙。茶。の。姑。麻。姫。の。智。の。男。の。速。の。真。偽。を。猜。査。し。と。故。意。那。説。を。拒。
 め。る。ん。管。領。家。の。賢。慮。あ。ら。う。今。番。の。限。り。の。慰。め。を。言。家。主。の。泰。勝。と。其。侶。の。
 只。云。と。非。を。餘。る。密。談。の。小。夜。深。の。け。任。而。を。詰。旦。豪。家。と。泰。勝。の。就。盛。の。與。郎。
 們。の。辞。別。れ。日。を。京。師。の。還。り。の。は。れ。満。家。鮎。の。用。室。の。招。た。合。れ。八。九。の。首。尾。を。尋。ね。る。か。
 豪。家。の。泰。勝。の。隠。業。を。多。く。姑。麻。姫。の。の。れ。う。け。ま。の。趣。首。より。尾。を。送。代。の。被。知。ら。

老。御計略の違ふを。我門俱の辯を掉さく。哄誘ひの姑磨姫の比の禁獄の
 徴りる軟將軍家の御武因思をく稱まのて敢隱謀の一味を公実情の公
 との満家頭を掉りて否そを他が搗鬼の憶を公使達兩人を這方より遣る間謀見
 ぞと猜せしより。故意其頭を言を設く弄びさるん他いふと御武因思を辱る多の公
 者たる炎の咲れざる西腐肉を争何せんを益多とを味を公家哀然を慰を仰定はる
 理の拙僧の目姑磨姫を多見る折既不知り他素より幻術ありとと拙僧們が
 假使多をを看破さける軟迷馬脚を露路と備の圈套を乗らざるのの本
 事あり他對面の初より拙僧言心憚りと身邊へ近づくを許定見の術を敗はる
 と偷怖れ多を由に推量る那伶ら毒菓置多と拙僧信在在限り頭を
 出まて克かきも尚又異謀の父を拙僧仰つけられ立地降伏とせ後安仕ん
 長の知れき妙の為の賢慮を多費らば物も解誇れ満家聊多かんと老師の

竟見きのと憑りて又思案を旋りと異日徐小謀を。長途の疲勞を
 菴へ退は休ら多と勞さ此の施物を取各けの介程の左馬介持永の豪家袁泰勝
 們が河内を假使の成を工夫の還り笑より且取も本意多の猶那地の先
 景を詳小听んと這宵木造泰勝を身の子令招と。偷尋問の泰勝の姑
 磨姫の問答の言の顛末已が非飾を然に多他も敗を語言巧小舌の焼る今
 觀る如く一まの漏る報知りや又の多世人の那姑磨姫を兇猛武骨の勇婦の如く
 と傳へる笑と見る表裏を他未曾有の美人の衣通姫小野小町いさ
 けの画像の比れ同日の論ありて婦城織女星の人間降誕をわきまの面影を
 とられ半用る春の花の秋の月を掛さく腰へ西湖の柳も及む肌膚の藍田の手り清が
 却音聲の身毒ありとの多加陵頻伽の囀るも似る武張り一処の毫のわきま洗魚
 雁の秋用月羞花の秋秋壁の物も画くも筆の及む。非除一宵半夕多

久く恩赦の沙汰もされければ、仕度もゆく身の果ぞ。一日も胸安くも果敢く送り置敷。故
 人ものあつた況祐神を、月も既果るまのけの佛顔も、誠感も汲引も、幸あつたも、又信
 望も、天の救ひ地も喜び、只伏拜と伏せ、追従輕薄の心も、再生の思も、御利益
 のこと稱へ、これより、就盛の財用も、家謀某甲の吩咐、長總の衣裳と、親の調度と、
 取ら、準備整はせ、即便長總の赤坂の陣館遣き、一個の雜色使も、他が東
 西を扛擔、奴隷と俱送、口は足、長總の持水使、専女貞と、之持、言置、
 其の昔も、皆男世帯の賄ひ、究竟の者と、され、鋒刺の枝衣の出納、日毎、言置、
 も、その段も、さす、口は、補ひ、屬る、奴隷們を、追使、も、才あ、俗の云、龜門將軍、
 麻生、隨、執、い、あ、ま、の、口、は、奴、隷、ゆ、え、右、置、ま、其、身、の、過、失、を、報、り、こ、あ、ん、
 然、と、の、偷、の、怕、れ、け、の、任、り、は、れ、ど、持、水、の、京、師、を、在、り、快、樂、の、似、を、女、田、樂、土、奴、婦、も、這、田
 舎、を、り、こ、く、偶、獲、の、長、總、の、答、止、醜、か、ら、る、二十餘歳の、潤、澤、の、花、之、婦、女、早、魁、め、れ

と、他、の、臥、房、の、近、づ、い、の、ま、の、の、外、聞、の、我、這、地、方、の、程、徒、ま、の、姑、麻、の、姫、と、見、入、與、の、
 る、の、渴、望、徒、日、と、使、の、根、を、思、ひ、の、稍、を、便、宜、に、し、れ、有、一
 日本造泰勝との餘も、伴當、幾、名、候、も、補、正、真、の、宿、所、の、道、ん、せ、一、獨、泰、勝、の、困、
 撥、の、返、巡、と、豫、も、稟、上、な、ご、在、下、の、兩、個、の、仇、あり、一、個、の、女子、を、か、く、相、敵、を、ん、欲、ま、
 怖、る、お、足、の、あ、の、う、助、劍、せ、と、い、れ、る、達、の、六、六、信、夫、兄、や、武、藝、男、悍、姑、麻、姫、拮、抗、を
 危、壯、士、へ、面、を、晒、き、白、書、の、お、伴、の、願、い、の、餘、人、と、俱、に、を、め、と、持、水、の、和、郎、が、遠
 慮、の、お、ま、の、縦、も、お、れ、横、の、せ、這、河、内、の、我、伴、當、指、の、お、ま、の、遊、其、け、
 特、更、の、微、行、の、伴、を、編、を、允、夫、後、々、の、我、身、の、看、か、い、の、思、ひ、お、か、論、せ、泰、勝、推
 辞、難、の、日、の、伴、お、ま、の、介、程、の、持、水、を、戴、馬、の、騎、を、泰、勝、們、を、従、へ、既、一、何、備、も、
 正、真、の、宿、所、お、ま、の、正、直、遠、く、お、迎、へ、馳、く、書、院、の、上、座、の、席、を、設、請、登、ら、茶、を、度、
 め、果、子、と、差、込、の、管、待、大、く、お、の、持、水、連、の、推、禁、め、晚、生、け、の、拜、門、の、酒、茶、雜、談、の、興

る所^の庭^は天然^山より千里^鏡と見え時^は那^八九^の井^院の八^間隈^はく眼^下のあり
 因^り姪^女の進^止もよく知^らんとや^らん。今^もも^も那^里の動^静と日^は現^ひ多^かと向^ひ正^直然^と
 初^め日^毎不^圖見^と遊^佐もよと報^れたも向^京連^のもよと昨^今人^も我^の冬^執事^の時^候
 られ姑^麻姫^の笠^簪坐^とせ見^るともの益^な故^久く眺^望仕^と持^永領^を然^りも
 晩^生老^代りて件^の山^は遠^見ま^りれ^る日^二日^もく^も夜^半は^らの^もあ^らぬ^日後^日
 日^の大^後日^の推^参の上^のと^り現^ひ果^かか^りの^一日^の親^の内^意で^の
 命^を許^したま^らん^秋任^れ日^毎の事^をん^の言^待預^の倒^の度^を決^めて^明日^の
 割^竹電^の初^めの^林初^めの^願の^眺望^の家^内の^憑の^正直^の
 老^當湯^湯浅^敷義^と口^を任^と吟^呼の^敦義^躬と^若當^奴隷^共侶^の庭^を
 小^山の四^向を掃^き毛^氈布^且と^煎茶^の儲^手爐^安火^の准^備敷^と正^直
 千^里鏡^と合^の推^ち先^の案^内と^登時^持永^の伴^當泰^勝と^日登^し先^正直^引

會^と所^從々^庭出^{けり}折^り十^月の中^旬之^掃庭^庭降^雪樹^々の落^葉の絶^間の昨^夜
 夜^の隨^る霜^柱踏^み音^の山^壞の袴^{の下}と^各枝^を鳴^く四^向高^く登^れの^冬
 樹^枝の風^寒く瑣^々鳴^く數^の柴^鶴鳴^の外^の詠^の持^永の姑^麻姫^とま^くは^しる
 找^そも^も小^山の山^頂登^りて那^言と見^且ま^現八^九の莊^院の向^りて^も前^面中^と向^の
 一^條の山^川の^其頭^の山^林堂^塔の障^の然^而正^直の若^當二^名と煎^茶の給^仕
 仕^果ら^して携^る兩^箇の千^里鏡^と持^永主^僕分^ち授^て辞^して百^屋退^のけり却^説左^馬介^の
 持^永泰^勝と共^侶の眼^鏡架^を膝^を找^め千^里鏡^と那^莊院^と見^はと約^半响^許送^の
 代^の退^て茶^と暖^りる^燗め亦^千里^鏡と合^抗て見^れの^鮮明^を那^里の庭^と縁^の折^の
 繞^らしたる^處まで指^ささ^る障^子の向^み向^られて一^個の奴^婢も^なく^ある^日を^消
 消^{した}る^本意^をと^却の^日没^の時^候の泰^勝と俱^と百^屋下^の
 未^終と正^直の待^着て准^備の盆^と薦^め夕^饌と羞^めとと叮^嚙の言^待けり是^をと持^ち

永の日毎も泰勝們を俱して。這里も未だ宿所より。主後の割符を持と。敢主人の御食。受む折々果子名酒魚肉を贈りて。金襴の文結を志と表せし。意中の計較ある。然る雨の日雪の朝を除くの外。主僕這山の四向。日参となる。三十日及び。那姑摩姫と。左右の程。今茲の。日と。儂て春を待り。十二月中院。隨有一日八九の。莊院の。煤掃を。做さるべし。持永主僕。例の。千里鏡を。合て。是より。一家見皆用。放りて。立拵く奴婢們的。縁頼の。布と。端坐と。ある。姑摩姫と。その人柄を。猜せらる。正是。沙内の。黄金礫中。珠玉。以り。千種の花。立並ぶ。色も香も。樓の。佐久良鄙。勿論。都中の。侍。早る。美少婦。との。日初て。上り。疎。泰勝が。讚る。現。虚語。と。持永。殆。感。堪。た。鬼。浮。れ。聲。と。發。し。奇。也。と。唱。歎。を。音。韻。印。氏。呂。律。と。奏。し。て。笑。か。如。く。泣。く。如。く。口。説。が。如。く。睡。語。の。似。たり。然。る。亦。泰。勝。も。姑。摩。姫。と。る。垣。衣。の。日。初。て。え。か。し。て。驚。く。ま。も。着。惚。れ。る。涎。の。眼。鏡。は。と。覺。せ。肚。裏。を。と。邊。邊。音。量。の。上。女。想。涌。出。ま。せ。れ

とも。後方。侍。る。楠。の。若。黨。が。ち。咳。く。胆。と。淡。き。稍。醒。て。主。僕。齊。一。と。る。折。面。照。且。羞。て。送。り。口。と。鉗。む。及。の。日。れ。短。く。下。晡。の。時。候。那。果。燗。帯。と。支。果。て。障。子。を。開。き。建。電。を。一。人。の。た。ま。さ。り。一。り。忽。地。の。肉。盡。て。風。を。狂。奇。の。寒。く。は。れ。持。永。の。卒。還。と。泰。勝。と。お。く。遠。く。山。を。下。り。正。直。別。と。告。げ。伴。當。と。さ。ぐ。立。く。乘。る。騎。の。跌。く。も。悲。の。占。北。後。と。心。樂。ま。の。色。も。赤。飯。の。宿。所。其。夜。還。る。程。の。持。永。の。泰。勝。と。召。近。着。て。酒。を。湯。瓶。不。取。せ。け。良。る。姑。摩。姫。の。唾。と。う。ち。相。譚。お。泰。勝。も。亦。垣。衣。の。情。々。地。の。公。出。て。花。相。似。る。後。生。の。色。と。好。め。る。あ。る。れ。心。の。春。を。浮。れ。も。寒。氣。を。温。室。の。爐。の。火。も。煎。る。冬。牡丹。富。美。の。子。弟。の。長。閑。る。十。二。月。の。天。の。三。十。日。草。今。宵。の。酒。の。曉。け。は。任。而。左。馬。介。持。永。の。次。の。日。の。河。備。を。正。直。の。宿。所。へ。赴。く。先。贈。物。の。准。備。を。做。さ。五。色。の。春。絹。伊。丹。の。新。酒。南。都。の。柏。製。の。鮎。魚。と。二。五。種。の。吊。葦。を。載。し。伴。の。奴。隸。を。早。し。て。み。る。是。と。お。て。那。里。に。到。れ。ば。正。直。軀。て。出。迎。へ。く。例。の。書。院。小。請。ト。け。り。看。茶。の。礼。既。果。て。却。持。永。が。の。け。ら。る。晚。生。連。日。推。參。ま。て。

素勝



おのろ



おのろの
せんりき
千里鏡中
雙美出現
その人千あつ君をかもん

十五

有像第五十二

お庭の踏荒し且その度々の懇切なる管待の預りたる秋の舒の晝かたる晩生頂那莊院は
 光景を遠見あるの縁も老ののれなく疑へたるものも今茲も才あるのれなき登山駐望の
 まる中以後のその美及ぶとて京師へ直送らば拙父のしるべき女心を連日馳走の報に
 まる此の物件を承領し笑留願のしるす間湯浅敦義の若黨二名持永の正旨物を常
 運して主の身邊に安排せし赤坂様持永のあはれ御申のしるすも正直なる持永の対し額を
 したるまきまののれなき敷種の各物を賜り身苦意謝する所を知れ在下今殊更なる小身
 多ての光臨辱まのしるす東儲の心儘を不敬至極の趣合するかの如き思見本意
 のぞ恐れ入る當惑のまかしのしるす持永のまきまの噫のまきまの何うあんなに獻芹の寸志
 意のその汗顔なる願の枉て收めぬのしるす正直推辞難てもまきまの權且意氣儘に若黨
 中秋先風爐八奥へてまきまのしるす敦義若黨の初の如き物件をの繰り合て退りけり
 介程の正直持永が告別してまきまのしるす推禁も猛可の不意を薦め管待の暗諱の時程一

語次からひける中料ら成りけるのしるす屢光臨あるのしるす是れ京師の一日の疎多の似後
 最漏れと思ひたる然何事扱はし傳はれた折のしるす荆婦并の拙女們のあ見をぬりけり
 のしるす持永含笑をもち又ぬりたるのしるす親しく交参まわされ親族の傳をぬりたる快く見
 参せまはれと心なされ正直の軀骨も鳴らして敦義を召しませ侍と吩咐れ敦義の
 ろる果てのしるす奥へ退りて姑且と正直の妻木石の女見まきまの美衣被せ後方の跟
 出てまきまの良人の側坐列して先持永の対して初見参の口誼長きお羨るを祝し來臨の辱
 恥とて東西言々贈られるのしるすおびしるすと備せまきまのしるすまきまのしるす恭しく又持永の
 對してまきまの甘子と喚ゆる女見まきまのゆるかしのしるすまきまのしるす板うつる顔の秋楓の戸隱山は鬼
 女とまきまのしるす情を對し果に額つたる頭を招めまきまのしるす登時持永の膝を杖で這母
 女とまきまのしるすまきまのしるす肚裏のあまの共楠氏の流と汲むまきまのしるすまきまのしるす是は從父姉妹
 るれまきまのしるす色両金と愛した吉祥天女之這の相貌を雙の醜思小見の啼と林示ひたる黒暗天

其の来迎せり。奥の酒の醒果の淫の匿く然も渴する。皆男嶋を来秋の。あはれが自果の撮りて
 出ん。あはれが自果の撮りて。あはれが自果の撮りて。あはれが自果の撮りて。あはれが自果の撮りて。
 此秋果の人の。あはれが自果の撮りて。あはれが自果の撮りて。あはれが自果の撮りて。あはれが自果の撮りて。
 耽りて。あはれが自果の撮りて。あはれが自果の撮りて。あはれが自果の撮りて。あはれが自果の撮りて。
 屢訪せり。あはれが自果の撮りて。あはれが自果の撮りて。あはれが自果の撮りて。あはれが自果の撮りて。
 人の訪れ。あはれが自果の撮りて。あはれが自果の撮りて。あはれが自果の撮りて。あはれが自果の撮りて。
 新参を。あはれが自果の撮りて。あはれが自果の撮りて。あはれが自果の撮りて。あはれが自果の撮りて。
 持永の。あはれが自果の撮りて。あはれが自果の撮りて。あはれが自果の撮りて。あはれが自果の撮りて。
 夫婦の。あはれが自果の撮りて。あはれが自果の撮りて。あはれが自果の撮りて。あはれが自果の撮りて。
 移との。あはれが自果の撮りて。あはれが自果の撮りて。あはれが自果の撮りて。あはれが自果の撮りて。

こそ賜へけれ。あはれが自果の撮りて。あはれが自果の撮りて。あはれが自果の撮りて。あはれが自果の撮りて。
 のひひと。あはれが自果の撮りて。あはれが自果の撮りて。あはれが自果の撮りて。あはれが自果の撮りて。
 盡く。あはれが自果の撮りて。あはれが自果の撮りて。あはれが自果の撮りて。あはれが自果の撮りて。
 永み。あはれが自果の撮りて。あはれが自果の撮りて。あはれが自果の撮りて。あはれが自果の撮りて。
 と。あはれが自果の撮りて。あはれが自果の撮りて。あはれが自果の撮りて。あはれが自果の撮りて。
 慮料。あはれが自果の撮りて。あはれが自果の撮りて。あはれが自果の撮りて。あはれが自果の撮りて。
 らん。あはれが自果の撮りて。あはれが自果の撮りて。あはれが自果の撮りて。あはれが自果の撮りて。
 低。あはれが自果の撮りて。あはれが自果の撮りて。あはれが自果の撮りて。あはれが自果の撮りて。
 才色。あはれが自果の撮りて。あはれが自果の撮りて。あはれが自果の撮りて。あはれが自果の撮りて。
 永入。あはれが自果の撮りて。あはれが自果の撮りて。あはれが自果の撮りて。あはれが自果の撮りて。

さういふまゝ老我與小泰山は是より長く通家と云く恩澤を仰ぐ。月下翁岳父兼帯の大役を辞さざる方便あると松父もゆづり。又與之計らる。柱て美引のいな。と呷語がき。父意東の一談の正直の呆果て沈吟する眉を頻草めその氣遣ひは姑麻の姫の知るごとく我姫さういふれ。今に至りて睦らき且他の快氣あり。苟且も人の氣を言ふこと肯せ及ぶ。でも知辯を掉りて説薦めはも在下がふよと。听るづもゆづり。這御所望の別人の媒妁ある。還て成就するをわん。さす又賢慮を旋され介するをもち。勸解るも持永職を眼争。子そそ然る故もあべけれど。杪鋭の釘も打たへる。さすこの人か告ぎて成て不成と知る。我家の知らぬ室所殿の類族を親代々管領の門第の塔をせれて不足ある。よの女性の胸の廣く。南北朝のまを以思ふとのある。武家一統の治せらる。武家の室所殿の武徳の瀟々ぬ者や。を猶悉く嫌れる。船の契々剣を求め琴柱の膠をく似り。己前さういふ。さすは。是より長く通家と云く。恩澤を仰ぐ。月下翁岳父兼帯の大役を辞さざる方便あると松父もゆづり。又與之計らる。柱て美引のいな。と呷語がき。父意東の一談の正直の呆果て沈吟する眉を頻草めその氣遣ひは姑麻の姫の知るごとく我姫さういふれ。今に至りて睦らき且他の快氣あり。苟且も人の氣を言ふこと肯せ及ぶ。でも知辯を掉りて説薦めはも在下がふよと。听るづもゆづり。這御所望の別人の媒妁ある。還て成就するをわん。さす又賢慮を旋され介するをもち。勸解るも持永職を眼争。子そそ然る故もあべけれど。杪鋭の釘も打たへる。さすこの人か告ぎて成て不成と知る。我家の知らぬ室所殿の類族を親代々管領の門第の塔をせれて不足ある。よの女性の胸の廣く。南北朝のまを以思ふとのある。武家一統の治せらる。武家の室所殿の武徳の瀟々ぬ者や。を猶悉く嫌れる。船の契々剣を求め琴柱の膠をく似り。

美以説ゆ。素より伶俐な姪女と必言下ゆ。赤繩永く相結が喜ぶ。さすの再婚の煩わらぬ。再婚の再々遍も。姪女の納得めらる。口方便を願。返る酒氣分る。長談義。正直治田。果て情をも嘆息せ。嗔め分ら。其の眞の。姑麻の姫の告知る。利害を釋た感に醒。是非の宿所の環の。正直と。宵妻の木石と。女兒苦子と。身邊の格は。持永の。那婚縁の一條。徳々と其の。水石の。額ある。掛け。胸苦。叔父姪を。雙言敵の思を。姑麻の姫の。氣遣ひ。殿の権臣の。縁。姑麻の姫の。正直頭。推辞。然と。楯。杖と。俱か。然れ。正直頭。掉て。知らぬ。権家の。家。路。言葉。非如。談。教。

我意のくさるるあはれ鳥鵲の劣る橋渡一人の瀬を待たせしめ我恥しむる世の連
 時小従へり要るるの使を薄情たる現江湖上の驕る人の心ぞとうち吐けぬは速懐か
 木石廿六子の諫難く齊一歎息あつつけ。然而あるはあはれ正直と次の日三三個の
 伴當をねり八九の社院へ赴き姑麻の姫小對面く送の口誼記り折那持永の懸
 きてる婚縁の一談を談し我の亦事と好まは提擲と做まふは然けれど時勢の使
 され後竟小室家侯の外め免れとあはれ信り承入めたりとて挟せらるる然知ねと和女郎を
 異小室町殿の助命の御恩輕たよる況吉野の帝御和親あて方僅一統の大御代
 るれの南北の差別あはれ且且山氏の足利家の庶流を二管領の隨一門第との權家
 と云是世人の羨む所の美を以了簡あはれ咱們も甲斐あまも宜は忘と听ねと情あまを
 口説ける畢竟姑麻の姫叔父説けて這答甚麼ぞや開八次の巻小解分はと聴ねが。

開卷驚奇俠客傳第四集卷之四終

12
25
15



